

病害虫発生予察情報

- 1 令和 7 年度 病害虫発生予察 予報第 7 号（10 月）
- 2 気 象 情 報 九州北部地方 1 か月予報（福岡管区気象台）
気象台メモ（大分地方気象台）

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		掲載ページ
		平年比	前年比	平年比	前年比	
水 稲	トビイロウンカ	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	-
大 豆	紫斑病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	カメムシ類	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
	ハスモンヨトウ	平年並	前年並	平年並	やや少ない	-
温州ミカン	黒点病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
	ミカンハダニ	やや多い	前年並	平年並	前年並	P.3
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	やや少ない	平年並	やや少ない	P.3
夏秋トマト	すすかび病	平年並	前年並	やや少ない	やや多い	-
	灰色かび病	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	-
	うどんこ病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.4
	コナジラミ類	平年並	やや多い	やや多い	やや多い	P.5
	ハモグリバエ類	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	-
夏秋ピーマン	うどんこ病	やや多い	多い	平年並	やや多い	-
	斑点病	やや多い	前年並	多い	やや多い	-
	タバコガ	やや少ない	やや少ない	平年並	前年並	-
	アザミウマ類	多い	前年並	多い	やや多い	-
白ネギ （平坦地）	ネギアザミウマ	やや多い	多い	やや多い	多い	P.6
	シロイチモジヨトウ	やや多い	やや多い	平年並	やや多い	P.7
	ネギハモグリバエ	平年並	多い	やや多い	多い	-
白ネギ （中山間地）	ネギアザミウマ	少ない	少ない	やや少ない	少ない	-
	ネギハモグリバエ	平年並	前年並	平年並	前年並	-
イチゴ	うどんこ病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	炭疽病	平年並	前年並	やや多い	やや多い	-
	灰色かび病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	ハスモンヨトウ	平年並	前年並	平年並	前年並	P.8
	ハダニ類	平年並	前年並	やや多い	やや多い	P.8

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。

◎特記事項 令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 5 号（ピーマン 斑点病）：令和 7 年 8 月 27 日

令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 6 号（トマト トマトキバガ）：令和 7 年 9 月 5 日

大豆

1 カメムシ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月上中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並、25株当たり虫数は平年より少なかった。

発生圃場率：20.0%（平年：21.6%、前年：20.0%）

25株当たり虫数：0.3頭（平年：0.7頭、前年：0.2頭）

イ 予察ほ場における9月中旬の調査では、生息虫数は平年よりやや少なかった。

ウ 本虫は高温乾燥条件が続いた場合に発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は平年並10%、高い確率80%、降水量は少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫、成虫は主として着莢部に生息するので、薬剤が十分付着するように防除を行う。

イ ミナミアオカメムシは、他のカメムシ類と比較して増殖能力が高く、IRACコード「3」（合成ピレスロイド系薬剤）に対する感受性が低いため、適切な薬剤を選定する。

ウ ミナミアオカメムシの第3世代ピークは10月上旬に認められるため、幼虫の発生が多く認められる圃場では、10月に防除を検討する。

カンキツ（温州ミカン）

1 黒点病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病果率は平年より低く、平均発病度は平年並であった。

発生圃場率：本年42.9%（平年60.0%、前年55.6%）

平均発病果率：本年9.8%（平年17.5%、前年20.2%）

平均発病度：本年5.6（平年4.9、前年8.6）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率20%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 10月以降も高温、降雨により多発することがあるので、状況に応じて収穫前日数に注意し防除を実施する。

イ 伝染源である枯枝の剪除徹底に努める。

ウ 防除に使用する薬剤は、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生葉率ともに平年より高かった。

発生圃場率：本年 57.1%（平年 27.5%、前年 55.6%）

平均寄生葉率：本年 7.3 %（平年 4.2%、前年 5.6%）

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 10%、高い確率 80%、降水量は、少ない確率 40%、平年並 40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生に注意し、状況に応じて収穫前日数に注意しながら防除を実施する。

イ 抵抗性の発達を回避するため、IRAC コード表を参照し、同一系統薬剤は年1回の使用とする。

果樹共通

1 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 各地点のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並に推移している。

イ 本虫は高温条件で飛来が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 10%、高い確率 80%と予想されている（気象予報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により大きく異なるので、園内外をこまめに見回り早期発見に努める。

イ 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時に行うと効果的であり、地域全体での一斉防除はより効果的である。

ウ 殺虫剤の多用は天敵等への影響が大きくハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。

夏秋トマト

1 うどんこ病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、平均発病葉率は平年並であった。

発生圃場率：20.0%（平年 40.2%、前年 20.0%）

平均発病葉率：11.6%（平年 9.7%、前年 9.3%）

イ 本病は乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

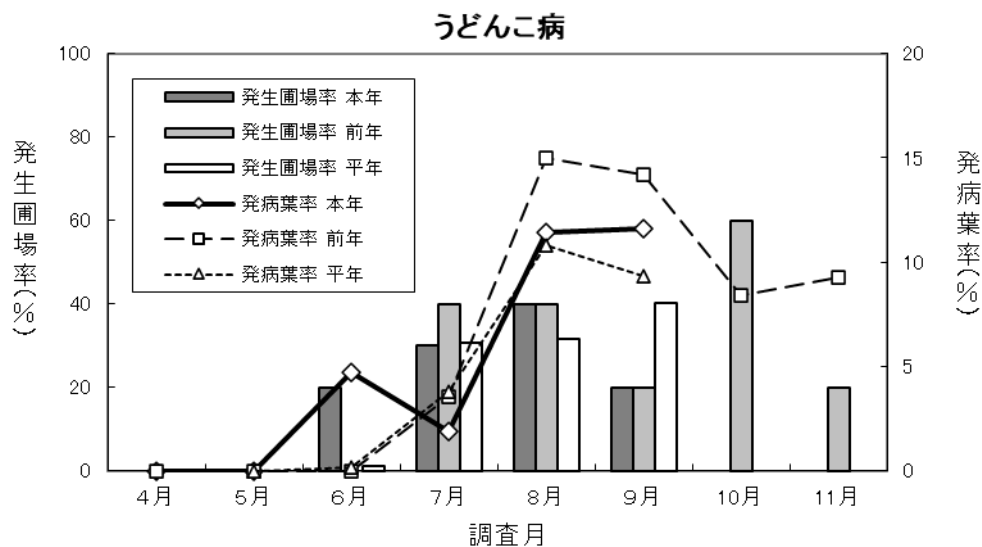
(3) 防除上注意すべき事項

ア 一旦発生すると防除が困難になるので早期発見に努め、防除は予防散布や初期散布に重点を置くとともに葉裏にも十分薬剤がかかるようにする。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ 発病葉は伝染源となるのでこまめに除去し、圃場外に持ち出して処分する。

エ FRACコード「3」（EBI系薬剤）は連用すると耐性菌を生じやすいので、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



2 コナジラミ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並、平均株当虫数は平年より高かった。

発生圃場率：30.0%（平年 27.2%、前年 20.0%）

平均株当虫数：3.2頭（平年 1.7頭、前年 0.9頭）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 10%、高い確率 80%、降水量は、少ない確率 40%、平年並 40%と予想されている（気象情報参照）。

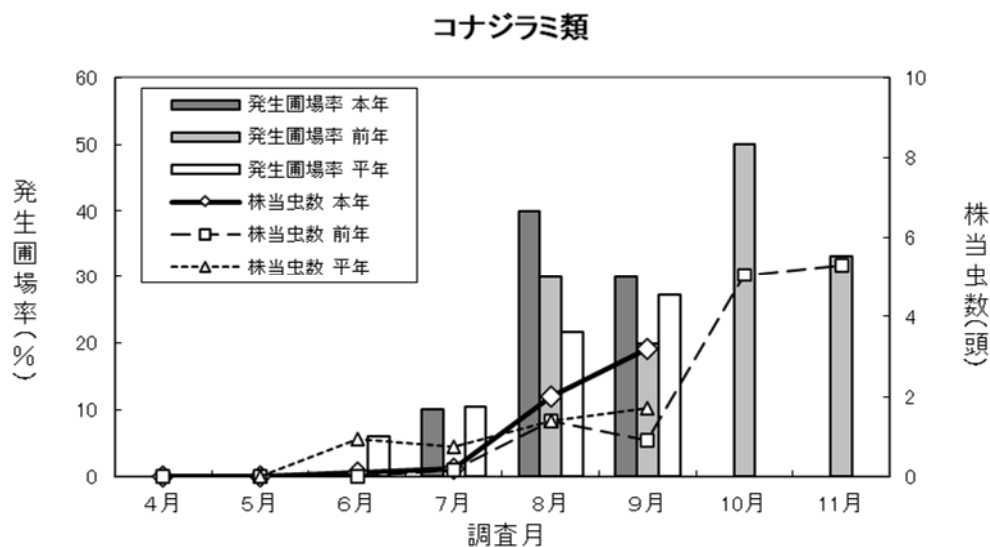
(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は葉裏に寄生して吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努め低密度のうちに防除を行う。

イ 本虫は多種の雑草にも寄生し増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

ウ タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を、またコナジラミ類はトマトクロロシスウイルス（ToCV）を媒介するため、薬剤散布を徹底する。

エ オンシツコナジラミでは IRAC コード「4A」（アセタミプリド剤）に対する薬剤感受性が低下しているため、本虫を対象としたアセタミプリド剤の使用は控える。



白ネギ（平坦地）

1 ネギアザミウマ

（１）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

（２）予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった。

発生圃場率：87.5%（平年：52.5%、前年：37.5%）

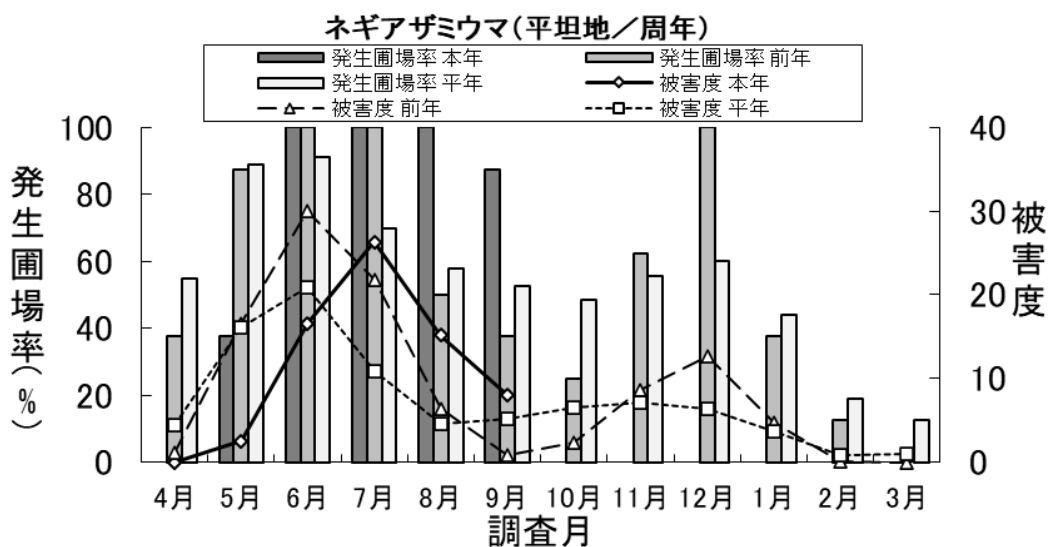
平均被害度：8.0（平年：5.2、前年：0.9）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

（３）防除上注意すべき事項

ア 周辺雑草が発生源となりやすいので、圃場内外の除草を徹底する。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、防除を行う。



2 シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高く、平均被害葉率は平年よりやや低かった。

発生圃場率：87.5%（平年：72.5%、前年：62.5%）

平均被害葉率：6.0%（平年：8.0%、前年：3.3%）

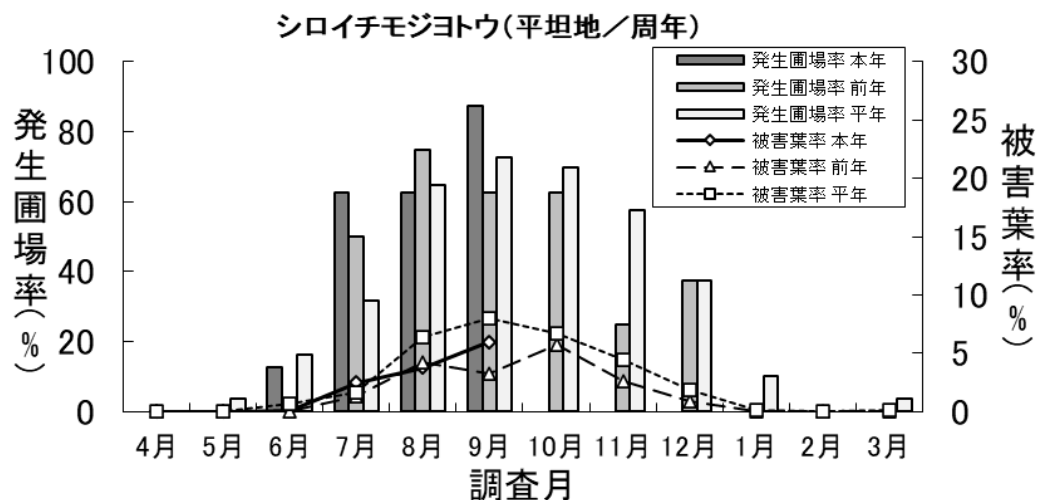
イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除を行う。

イ 本虫は薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、IRACコード表を参照して、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。

ウ 一部地域の個体群でIRACコード「28」（ジアミド系薬剤）、IRACコード「15」（フルフェノクスロン）およびIRACコード「18」（クロマフェノジド）に対する感受性の低下が確認されたため、散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控える。



イチゴ

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査（育苗圃）では、発生圃場率は平年より高く、平均被害株率は平年並であった。

発生圃場率：30.0%（平年：12.3%、前年：20.0%）

平均被害株率：1.2%（平年：1.0%、前年：0.8%）

イ 農業研究部に設置しているフェロモントラップによる9月の雄成虫誘殺数は、9月2半旬現在では平年より少ない状態である。また、県内各地に設置しているフェロモントラップの雄成虫誘殺数は、9月以降、ほとんどの地点で平年並、または平年よりも低く推移している。

ウ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は多食性で、多くの野菜、花き類を加害するので、圃場の見廻りを行い、発生状況に注意する。また幼虫の加害が続く場合には早めに防除する。

イ IRACコード表を参照して、同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

2 ハダニ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査（育苗圃）では、発生圃場率、平均寄生株率ともに平年並であった。

発生圃場率：30.0%（平年：30.2%、前年：40.0%）

平均寄生株率：13.6%（平年：14.6%、前年：10.4%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並10%、高い確率80%、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控えるとともに、天敵（カブリダニ類）の導入を検討する。

ウ 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。

エ 乾燥条件下になるとハダニ類の活動が活発になり、天敵の活動が抑制される。

※ 薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・ 発表：令和7年8月21日（毎週木曜日に発表）
- ・ 予報期間：令和7年8月23日～令和7年9月22日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率80%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率70%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要素	予報対象地域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	九州北部地方（山口県を含む）	10	10	80
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	40	40	20
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・ 発表：令和7年8月19日
- ・ 予報期間：令和7年9月～令和7年11月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、高い確率60%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率70%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

3か月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
9月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
10月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
11月	気温：ほぼ平年並	降水量：ほぼ平年並

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気温	予報対象地域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
9月	九州北部地方（山口県を含む）	10	20	70
10月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
11月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予報対象地域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30
9月	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30
10月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
11月	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30

◎ 最近1か月の天候経過（令和7年7月下旬から令和7年8月中旬の天候）

7月下旬（多照）

天気は、期間の中頃は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、竹田、宇目で平年より低く、豊後高田、日田でかなり高く、他は平年並か、高かった。降水量は、宇目で平年より多く、大分、犬飼で少なく、他は平年並か、かなり少なかった。日照時間は、平年より多いか、かなり多かった（多照）。

※大分市の旬平均気温は28.9℃で平年より高かった。旬降水量は7.5ミリで平年より少なかった。旬日照時間は116.5時間で平年よりかなり多かった。

8月上旬

天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多く、後半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。気温は、玖珠で平年より低く、他は平年並か、高かった。降水量は、平年並か、平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、平年並か、平年より少なかった。

5日は佐伯、6日は中津、杵築で「日最高気温の高い方から」、10日は日田で「日最大1時間降水量」の通年の1位の値を更新した。6日は大分で「日最高気温の高い方から」、10日は日田で「日降水量」、耶馬溪で「日最大1時間降水量」の8月の1位の値を更新した。

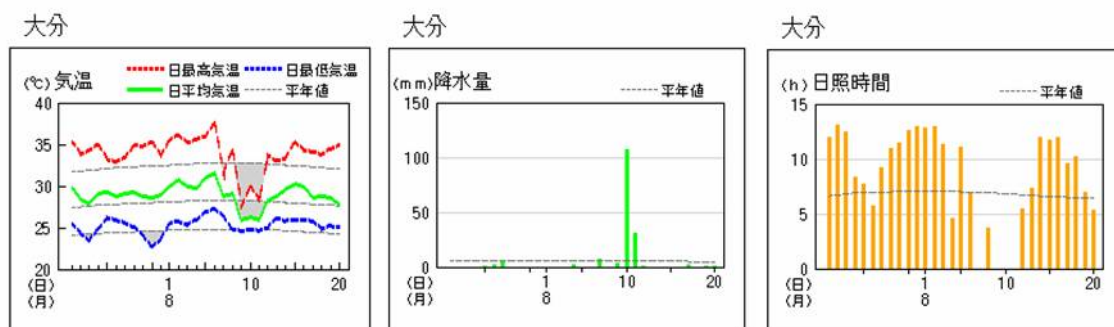
※大分市の旬平均気温は29.3℃で平年より高かった。旬降水量は119.5ミリで平年より多かった。旬日照時間は63.4時間で平年並だった。

8月中旬

天気は、期間のはじめは前線や湿った空気の影響で雨となった。期間の中頃からは高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、湿った空気や日射の影響で雷を伴う日が多かった。気温は、平年並か、平年より高かった。降水量は、竹田で平年よりかなり多く、他は平年並か、多かった。日照時間は、中津、湯布院で平年並、他は平年より多かった。

※大分市の旬平均気温は28.7℃で平年より高かった。旬降水量は34.5ミリで平年並だった。旬日照時間は80.3時間で平年より多かった。

地上気象 気象経過図：2025年07月21日～2025年08月20日 地上気象 気象経過図：2025年07月21日～2025年08月20日 地上気象 気象経過図：2025年07月21日～2025年08月20日



地上気象 気象経過図：2025年7月21日～2025年8月20日

適正防除はホームページで!!

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>

または

病虫害対策チーム

検索



農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう!